

平成 24 年度（第 3 回）あわら市スポーツ推進審議会会議録

平成 25 年 3 月 21 日（木）
午後 7 時 30 分～午後 8 時 55 分
あわら市役所 204 会議室

（会議日程）

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 議題
 - （1）国体に向けた組織準備計画について
 - （2）今後の社会体育事業について
- 4 その他
 - ・市技の選定について
- 5 閉会

（出席委員）

1. 吉江清治 2. 吉田昭博 3. 戎 利光 4. 北田延子 5. 赤神芳幸
6. 見澤美和子 7. 大田秀美 8. 池羽田雅子 9. 能美 進 10. 城戸橋政雄

（委員以外の出席者）

教育長、スポーツ課長、同課長補佐、トリムパークかなづ所長

【 開 会 】

教育長 ～開会あいさつ～

【国体に向けた組織準備計画について】

- 会 長 農業者トレーニングセンターの名称変更はどうなっているのか。
事務局 現時点ではそのままになっている。
会 長 名称変更は可能か。
事務局 条例の改正を踏まえれば改正できる。名称変更については、今後、検討していきたい。
副会長 バレーボールの視察が 7 月 3、4 日にあるが、トリムパークのコートの後ろの長さが足りないと聞いたが、通るのか。
事務局 ステージ側のサイドラインからステージまでの距離が足りないので、どうい

指摘をうけるか。

副会長 金津高校の許可はとれたのか。

事務局 県がセンターコート用のポールを設置予定。

委員 練習会場は確保されているのか。

事務局 トレセンについては、芦原中学校、芦原小学校。金津高校については、BGと金津中学校。トリムパークは伊井小学校、伊井公民館、坪江公民館、金津東小学校を予定している。

委員 29年のリハーサル大会はあわら市で開催するのか、県が開催するのか。

事務局 県としては、リハーサル大会はしてもしなくてもいいが、30年に一発勝負で国体を開催するのは難しいため、予行練習を兼ねた形で前年にリハーサル大会を開催しているのがほとんどである。ということで、リハーサル大会を開催した方がいいのではないかと。

カヌーについては、仮設を考えているので、同じ年に開催できないか、国体が10月開催ならば、5月か6月に県大会または北陸大会の規模でできたらと考えている。

委員 実質バレーボールだけか、ゴルフのリハーサル大会はあるのか。

事務局 先催地をみると、ゴルフも全国規模でなくてもリハーサル大会を開催している。競技によっては、北信越ミニ国体を開催すればリハーサル大会になると聞いている。新たに大会を設けなくても北信越クラスの大会を運営するというので、リハーサル大会になる。

会長 国体準備について、今年はスポーツ課で、26年からはどれくらいの規模を考えているのか。

事務局 人事とも検討しながら進めていきたい。

委員 カヌーだけが仮設、他の競技はどうなっているのか。

たとえば駐車場の整備、道路の整備はあるのか。時間のかかるものは早めに整備した方がいいと思う。

事務局 おそらく時間がかかると思うのは、バレーボールは今年7月に視察があるので、農業者トレーニングセンター、トリムパークで床や遮光カーテンなどの指摘を受けると修繕等に時間と経費がかかると思う。それを計画的に整備していきたい。

委員 育成の方は考えているのか。

事務局 その点も考えて実施していきたい。

【今後の社会体育事業について】

委員 スポーツ大会もいかなとちょっと思った。運動会といっても出る人が決まっていってなかなか難しい。子供がいなかったり、高齢の方に出てもらえなかったりした。スポーツ競技なら、高齢者に出てもらえる競技もある。

会 長 体協の立場で補足させていただくと、市民体育祭は2,500人以上の参加がある。あわら市の人口が3万人として、多い時で10分の1、3千人が集まる大会というのは他には考えられないので、こういう大会も必要だと思う。やはり交流を持てるのはこういう大会しかないのではないか。他市のようなスポーツ大会にしてしまうと、好きなスポーツだけ、同じメンバーが集まってしまう。いろんな人と出会える場を作っていくのが体協の仕事だと思っている。また皆さんのご意見を聞きながら、市民体育祭のやり方、あり方というのを考えていきたいと思っている。

委 員 今の運動会では、市民からどういう評価があるのか。私が聞いた話では、出番までの待ち時間が長いとか。だから、また違ったスポーツをしてメリハリをつけたいのかと。

委 員 スポーツ大会というと競技力を意識していると思う。見方を変えて裾野を広げるために、中高年、子供、今まであまりスポーツをやっていない人にやってもらえるような機会を作れないかと思う。イベント的な、健康づくりのシンポジウムでもいいが、運動しないで、運動をしている人たちの話を聞いてもらっても意識の改革になるのではないか。健康になるのなら、休みに運動してもいいかという人が増えてくれればいいと思う。

委 員 今の運動会にそういったレクリエーション的なものをプラスして。

委 員 運動をしない人にしてもらえるようになればいい。

委 員 各市でスポーツ大会をするのは、市の規模にもよる。あわら市は人口3万人で小さい方なので、人が集まらないという問題もあると思うが、まだまとまりやすい。大きな市になると、一部の人が寄っての大会になってあまり意味がないということで、スポーツ大会が主流になってきていると思う。あわら市はその特色というか、人口も少ないので、今のままでの体育祭というのも問題はあるかと思うが少し形を変えて、私個人的には、残した方がいいと考える。競技だけでなくレクリエーションを含めた、皆さんが出れるようなそういった方がいいと思う。

委 員 運動会は、毎年よく似たメンバーが来ている。やはり、意識改革をもっとやらないと。

やはり3万の人口で運動会式の限度かなと。あわら市も人口的にはこれで。運動会をやるにしても、形式を例えばリレー種目でも、子供から大人までたくさん人数が出れるような、つないでいくような、レクリエーション的にやるようにもっていく。今までの何とかリレー、何とかリレーというのを意識を変えて、違ったものにもっていくのも手かなと。地区別対抗になると勝ち負けにこだわるのでいつも同じメンバーになっていく。それを変えていくきっかけづくりを検討委員会でお願したい。なくすということではなく、競技スポーツは勝ち負けになってしまう。

委 員 2つ作るといいかなと思う。競技力向上するための大会と高齢者が出てこれる

ようなシンポジウムと。

委員 1位、2位、3位もいいが、ハッスル賞とか残念だったで賞みたいなの、各個人に目立ってハッスルした人に面白い賞を出すとか。いろんなスポーツ大会、バレーボール、ソフトボール、ゲートボールとかはやっているの、体育祭は名前はともかく面白い賞が出るような、1番にはなれなかったけれど出たいというような感じになるのもいいかと思う。

委員 2つを一つにすると目的がぼやけてしまう。競技の成績を上げるのはとても大事なこと。そのために一生懸命に練習しているから、そういう大会は必要だと思う。それとは別に高齢者が家にいるなら運動でもしようかなということも必要だと思う。

委員 それはトリムパークでやっている。老人会のスポーツ大会。健康長寿課とスポーツ課が合体するような大会を。組織は組織として考え方を变えて。

委員 市民体育祭をやっていて一番辛いのは支部の体協役員だと思う。何故そうなるかという、地域差があつて、子供が集まらない、人が集まらないから、雨が降って中止になるといいなど、結果、中止になってよかったという声も聞く。一方で各支部でも運動会をやっているところがある。そちらの方は地元の事だからと一生懸命にやっている。

そもそも運動会の目的は何かというと、合併して10年経ちますが、これまで続けてきたのは、一つは芦原と金津の合併という中で市民の融和と非常に重要な役割があった。でも現実には融和と言いながら同じ人が集まってくるということからすると、一応役割が大分終りの方に見えてきたのかと思う。むしろ地域のコミュニティを大事にするのであれば、地域の運動会をもっともっと支援してあげて市の体協が各支部の盛り上がりを助けるとか、そういったことを今後考えていっていいのかなと思う。それに代わって何をするのかというと、いろいろ意見が出ていたように老人会を含めたものも組み込みながら、みんなが楽しめるような、昔いろいろな競技大会をしていたが、結局技術の差が大きいから止めようと言って、野球がなくなりバレーがなくなりバスケットがなくなり、今は誰でもできるようなスポーツが残っている。その辺はもう考え直すべきだと。今から10競技くらい作ろうと思っても無理。主体となる体協がやるべきかどうかは考えていただくべき。一方で市としても市民体育祭の役割をもう一回検証した方がいいと思う。

会長 余談になるが、あわら市の体協として簡単な競技を残してスポーツ大会をしている。あわら市〇〇大会というのは競技団体がやっているの、そういうのをあげてくれば、他市とかわらないくらいのスポーツ大会をやっている。弓道にしても、剣道にしてもあわら市〇〇大会というのをしているので、体協は支援はしているが主催ではないと考えると他市と変わっていない。まだより余分に体育祭を

やっているのは、あわら市は3万という人口でまとまっているのではないか。

委員 実際、街の方は運動会をやっているのか。

事務局 金津地区はしていない。地区によっては小学校の運動会と合同で開催しているところ、別枠で開催しているところもある。それは、地域の特性である。

委員 最終的な目的は、なるべくみんな少しでも運動をしようということだと思う。何かしら競技に出ていけばいいのではないか。みんなが全員集まって、今の運動会は、いろんな地区が集まって、正直、自分の出番だけしか出てこないのだったら何の意味があるのかと思っている。それだったら、あり方を考えていった方がいい。急に変えなくても、徐々にスタイルを変えていとかそういう方法でもいいかと思う。高齢者も参加できる、家族ぐるみで参加できるような形がよいのではないか。

委員 運動は、健康づくり、仲間づくりができるメリットがある。

副会長 競技だけ出て帰る市民体育祭であれば、やはり楽しみがない。見ていて楽しい市民体育祭に体協とスポーツ推進員が協議してやっていくような形でいいと思う。またそんな楽しい大会にもっていけば市民の付き合いもできると思う。

委員 出てる人ではなく、出ていない人にいかに楽しんでもらえるか、考え方を変えないと。

委員 高齢者の方が動けなくなって、あわら市の医療費が高額になっている。

副会長 今、トリムクラブの方で「いきいき教室」を市の委託を受けて、公民館ごとに実施している。これがもっと広がるといいと思う。脳をエクササイズして、地区の人が喜んでやっていると聞く。

委員 まちおこしになる。

委員 それは何人からできるのか。

委員 何人からでもできる。

委員 スポーツというのではなくて、手足を動かしましょうという人も集まりやすい。

委員 年配の方は、運動会に参加する場面がないだけで、出たい中高年の方は多い。トリムクラブの会員の年代を見ても、子供は別として、多いのは50代後半から60代、70代である。そういう年代の方はいろんなところに行って健康のために体を動かしたいとか楽しみたいという人が多い。運動会の話に戻ると、体協の人は人数を集めるのに必死で、何時の競技に間に合うように来てくれればいいという言い方である。それでは、個人的に行って出て帰るだけ。そのために、その時間に行って帰るのは苦痛だと思う。役員の方も人数を集めるだけではなくて、テントの中で朝からきて楽しんでくださいという雰囲気皆さんに伝えないと。1日テントの中で楽しんで帰ってということ伝えることの方が大事だと感じる。地区のテントの中で初めて会う人とでも話が出きたりというようなことがないと続い

ていかないと感じる。楽しみたい方はたくさんいるので、そういう経験、体験をしないから行きたくないと言うだけで、楽しみたい方、交流したい方はいっぱいいるから、もって行き方じゃないかと思う。

【そ の 他】

・市技の選定について

副会長 市技は国体種目が選定されているパターンが多い。市が協力して人材育成した種目が市技になる。市の財政をかけて、人材を投与してくれればいいかなと思う。

委員 結果的に、旧金津町がバレーで、旧芦原町がカヌーで、たまたま両方とも国体種目の会場になっているので、それでもいいかと思う。そういうこともあるからバレーを引っ張ってきたのもあるのではないかと思う。ただ、市技にしたからどうなのということはある。カヌーで言えば、子供達をずっと育成しつつ、金津高校でチームができて、金津高校といえばカヌーだね、あわらといえばカヌーだねということまでできていると思う。スプリントにするかというのは別問題として。バレーの方は、徐々に低迷しているのでなんとかしなければならぬと思う。一方でソフトバレーはどんどん増えているから、ソフトバレーも含めてバレーでいいのかという気がする。

会長 バレーとカヌーは旧金津、芦原の町技としてやっていたのだから、それをそのまま市に上げて別に一つにすることもないかと思う。

そうして、その後選手育成の方をどうしていくかとか、それを広げていくにはどうしたらいいのということで、市技にしたからには何か盛り上げていかないと。

委員 ソフトバレー連盟は、前回の大会からシルバーの部も作りまし、ソフトバレーも含めれば人口はどんどん増えていく可能性がある。

市技にするのにどんな手続きがいるかという、別に何もなくて、条例で定めるわけでもなく、こうだとかいう場でそうしましょうよということで決まってしまうのと思う。教育委員会での審議も必要だと思うが。

事務局 参考にですが、今の市町の傾向をいうと、国体種目がそのまま市技または町技になるというようなことで意見がございましたが、それは平成の大合併の前の町の時代の町技はそういった形で決めてきたのではないかと思う。それでインターネットで、現在は市技を選定しているところを検索しても出てこない。というのは、どこの市も町も市技、町技というものを設定していないというのが現状である。一つの種目を取り上げて、それだけを競技力アップするのもいいけど、ほかにも競技団体はたくさんある。そういった観点から設定しない。それよりも今は生涯スポーツというような形の中で、いつでも、だれでも、どこでもスポーツに親しむことができるというような形の推進をしているということで、特定の競技を市技に設定していないのではないかと思う。

インターネットで調べて一つだけ市技があります。余談ですが、広島県の尾道市は囲碁とありました。囲碁がスポーツかどうかという事は別として、本当に競技スポーツでなくとも設定ができるというのものもある。なぜ囲碁かという、以前強い囲碁士がいたということで町が発展したので、囲碁に設定している。また、町技としては、現在も続いているかどうかはわからないが、合併前の北海道ですね、そういうところがまだ残っている。昭和40年、50年に設定している町技が残っている。実際、今どうなっているかは調査していない。

そういった点を考慮して検討していただきたい。

副会長 市技に決めるということは、市で盛り上げることが大事で、今までずっと審議委員会を開催していて決まらなかったということは、一つに絞きれないからという意味合いがあると思う。本当に市技を決めるのであれば、盛り上げるという意識を皆さんに持っていただかなければならないし、市民が持たなければならぬ。市技というものは、そんなに簡単に決まるものではない。

会長 一つの競技に絞るのは、今の時代にそぐわないということか。それがいいのか悪いのかはわからないが。メリットもあるがデメリットもある。

今、危惧されているのは、あわら市でカヌーをすると、カヌーのすそ野をどのくらい広げて、あわら市から一人でも入賞者が出れば一番いいかなど。やっても応援できる。そうすれば盛り上げるのではないか。バレーボールにしても国体選手がいるとなれば盛り上がる。

委員 市技を決めるのはいいが、一生生涯スポーツになるようなところで方針を出してもらわないと、子供はその時の指導者によったり、または仲間関係によって年々変わってくる。もし、市で固めていただけるなら、生涯スポーツにつながるような指導者の確保と金銭、いろんなところで援助していただかないと、市技を決めるのは難しいのではないか。特にカヌーの場合、中学校にプールもないし、大会の前に1週間前にチームを作って特訓をしても難しいという事で、カヌー協会の方が金津の子を入れて練習しているようだが、正式な部ではないのでその子たちは兼ねるので一部の子になってしまう。金津高校は、芦原中学校の卒業生が固まって興味のある金津中学校の子が入って、そして連携クラスを作っているところを中心に大会に出ている。何分数が少ないので、小学校の時に戦った相手に勝てばそのまま全国の1位になる。もし市技を選定するならば、生涯にわたるような方向性も加味していただきたい。

委員 市技の選定の議論をするなら、ウォーキングも考えていただきたい。ですが、目的は全然違います。健康づくり、寝たきり予防。

委員 生涯スポーツですね。永遠に続くような。

スポーツ少年団でやっていて中学校で部活がないと。高校へ行けば分散してしまう。大学へ行けば帰ってこない。特に地方は多いということで、なかなか連携

できなくて、盛り上がりには欠けてします。その辺、やはり特定しない方がいいと思う。

副会長 ということで、審議会では、そこまで決めるバックアップをぜひお願いしますという事で。

生半可に決めると、後々遺恨が続く。

会 長 特定してしまうのも難しい。

委 員 市技としてはともかく、国体の種目としてカヌーとバレーがピックアップされたわけだから、カヌーを知らない人はいっぱいいると思うので、一般の人も目にするような小さな大会なり、いろんなことを市の方でしていってもらわないと広く一般の方が応援するような環境にはならないと思う。

副会長 芦原もカヌーを 20 年やっているが、やっているのはカヌーポロで、スプリントはやっていない。五十嵐君が指導者として一生懸命やってくれていたが、それに代わる指導者の確保も大事だと思う。

会 長 市技については、今後も検討していかなければならないということで、新しい年度に入っても審議会を開催していくので、その中でまた議題に入れていただければいいかと思う。

【閉 会】

会 長 質問がないようですので、会議を閉会します。

午後 8 時 55 分閉会